

豊かな盆地農業が はばたくとき

北諸からの発信

21世紀は農の時代。

世界の食料不足に備えて国民の食料を安定的に供給できる産地づくりが強く求められている。

大淀川上流に広がる都城盆地は宮崎県でも有数の農業地帯。太陽がいっぱいの自然条件に恵まれて水資源など地域資源を活用して担い手が育つ元気な食料供給基地づくりを推進する。消費者の多様化する食生活に対応して、多様な農産物が生産できる畑地かんがい事業を推進し、消費者の顔が見える個性豊かなブランド産地を確立し、自立できる農業を展開する。

21世紀の農業は“安心・安全”がキーワード。消費者の健康志向の高まりのなかで、豊富な畜産資源を活用した元気な土づくりを柱に地球にやさしい環境保全型農業を推進することで、活力に満ちた盆地農業を展開する。

21世紀へ向けて、いま、魅力あふれる食料・農業・農村づくりが、北諸地域から始動する。

目次

豊かな盆地農業がはばたくとき	2
都城盆地に多彩な農業展開	4
消費者が見えるブランド産地	5
担い手が育つ農業基盤整備事業	6
基盤整備で地域農業が変わる	7
広がる農道網整備で地域が活性化	8
住んでみたくなる快適な農村生活環境が広がる	9
畑地かんがい事業が盆地農業を変える	10
畑作地帯がグリーンの台地によみがえる	11
地球にやさしい環境保全型農業を展開	12
地域農業を活性化するJA都城	13
森林資源が林業王国を築く	14
国土保全奨励制度でふるさとが再生	15
盆地農業を支える担い手群像	16
いきいきと盆地に若者がつとめ	17
盆地に農の文化がときめく	18
21世紀は北諸の時代	19

標高1,574メートルの高千穂の峰。どこからでも見える霧島連山は盆地に住む人々のこころのシンボル。20万人が盆地で暮らしている。盆地を水源にした大淀川が盆地の中央を流れて基盤整備された水田が広がって盆地農業を支えている。活火山の霧島連山から、長い歴史の中で降り積もった火山灰が地域特有の黒ボク土壌となって畑作農業を阻んできた。



母なる川 大淀川



盆地農業を見守るふるさとのシンボル「霧島」と水田地帯

都城盆地に 多彩な農業展開

やがて畑地かんがい用水がやってくる。盆地農業が大きく変わろうとしている。

盆地の空には、気球が舞いあがり、六月灯のふるさとまつりがにぎやかに復活して、ウェルネスの元気な地域おこしが定着しようとしている。農業は盆地の基幹産業。農業が活力をとりもどすことで地域が元気づく。新しい農業を支える担い手を核に、盆地農業の地域おこしははじまっている。



気球フェスタ



元気なまちづくり
ウェルネス市民運動の輪が広がる 都城市

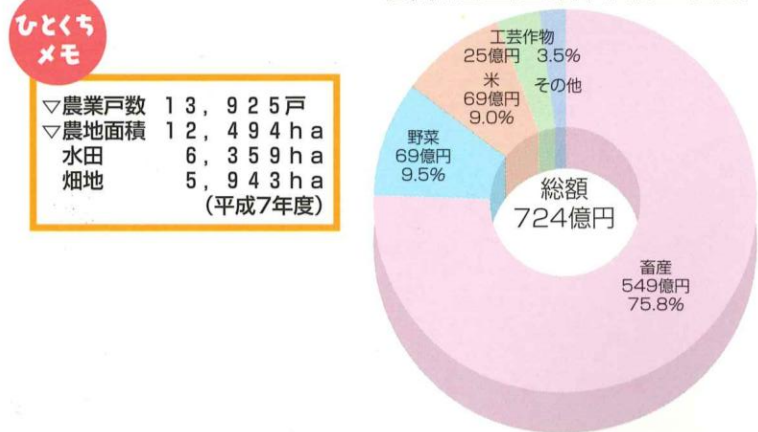


ふるさとまつり



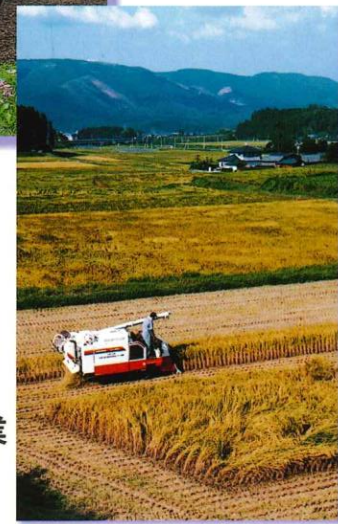
養豚

農業粗生産額(平成9年度)



より良き宮崎牛づくり 対策事業

肉用牛生産ランキング
全国1位の都城牛
飼育頭数 12,000頭



うまい米づくり推進事業

盆地農業を支える稲作
栽培面積4,550ha
生産量2万4,100トン



園芸作物ブランド産地総合対策事業

産地として定着化している特産のごぼう栽培
栽培面積476ha 生産量8,410トン

果樹産地 活性化対策事業

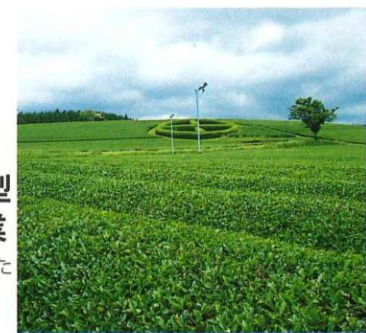
高価格で生産が伸びる
ハウスきんかん



新規参入の新顔 スプレーグ

みやざき茶21世紀型 モデル集団育成事業

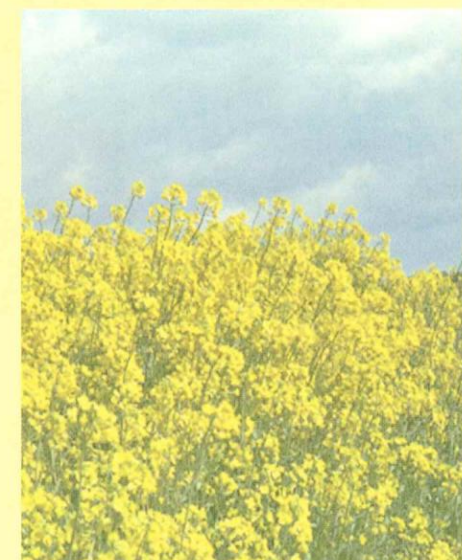
霧の多い気候に恵まれた
特産の都城茶
栽培面積 166ha
生産量 366トン



消費者が見える ブランド産地づくり

宮崎県は消費者に顔の見える産地づくりの柱に、売れるものをつくる“ブランド戦略”を据えて、地域の特性を活かした“みやざきブランド”を軸に個性あふれる産地づくりを進めている。宮崎牛、コメ、野菜、果樹、花など10品目をブランド作物に選んでいるほか、園芸ブランドとして、ピーマン、きゅうり、にら、きくなど11品目、53産地を指定している。JA都城管内では、ピーマン、きゅうり、

ミニトマトの3品目を指定して地域の香りが伝わってくる園芸産地づくりが展開されている。



農業の基幹作物である稲作が盆地農業をリードし支えてきた。農業の基盤整備事業は水田や畑地など農業の生産基盤を整備することで、農業の生産性を高め消費者に良質の食料を安定的に供給できる食料基地づくりを進める。北諸地域では県の平均を上回って基盤整備が進んでいる。合わせて、担い手が育つ条件を整えほかの産業並みの農業所得を実現できる、足腰の強い農

担い手が育つ 農業基盤 整備事業

業経営を目指す。また、農村の生活環境を整備することで快適な生活空間が広がり、住んでみたくなる農村がよみがえる。また災害から農地を守り、管理することで持続的な農業を展開し、活力に満ちた農業と農村を構築する。

都城盆地の水田の基盤整備は274ha(平成10年度)で県の平均を上回り平成12年度までに408haの整備が進む。



県営ほ場整備事業 (担い手育成型)



大型の基盤整備が進む水田地帯
都城市・横市地区受益面積・戸数
170ha・786戸



揚水施設
都城市・高木原

都城市・下水流地区
受益面積・戸数 132ha・549戸



大型水田に生まれ変わる基盤整備 (50ha)
都城市・大島団地
農用地整備公園が9団地合わせて167ha
を整備中 (平成8年度～13年度)

実りの秋
高性能の大型コンバインを導入して
低コストと省力化をはかる



整備された大規模水田の稲刈り 都城市

緊急生産調整 推進対策



ブロックローテーションが
実施される水田 都城市



空中防除
広い水田で
害虫駆除する

営農支援センター 機能強化事業

農作業受委託で高齢化農家などの農作業を支援する



農業機械化対策事業
大型機械化が進む稲作

ゆとりある 自給飼料 生産体制 緊急整備事業

転作で栽培される飼料作物



基盤整備で 地域農業が変わる

生まれ変わろうとしている。稲作の生産調整で、40%を超す減反が実施されて、北諸地域では地区ごとに2,3年おきに生産調整する、地域独自のいわゆる“ブロックローテーション”が実施されて地域ぐるみで助け合う稲作の生産調整が実施されている。転作作物としてさかんな畜産を反映して飼料や大豆などが栽培される。認定農業者など担い手を中核に、自立できる稲作営農を推進すると共に集落営農や農作業の受委託などで高齢化が進む地域農業を支え合う食料基地づくりが進む。

農地を広げる基盤整備と並行して、農道網の整備が進んで集落と集落が結ばれ、農作物の集出荷など物流がさかになる。地方道ともアクセスして農道は通勤通学や産業道路にも活用されて地域が活性化。広域農道が国道、県道と結んで都城盆地を逆U字型に伸びる。三股町から山之口町、高城町、高崎町、山田町、都城市と一般道路区間も含めて35キロの幹線広域農道



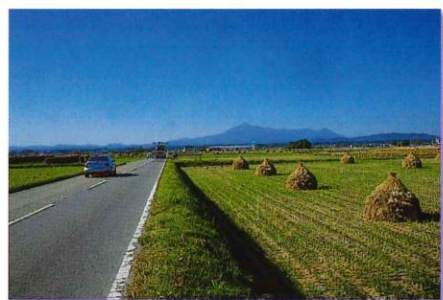
盆地を環状する
広域農道 三股町

県営広域営農団地 農道整備事業

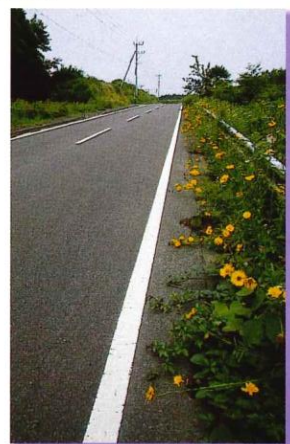


建設がすすむ
公団広域農道

農業用道路整備事業



農免農道



一般農道

ふるさと農道緊急整備事業



ふるさと農道 山田町



地域の人々が待望の開通をよこす
開通落成式

ひとくち メモ 伸びる農道

区分	力所数	延長距離(キロ)
広域農道	2	23,541
農免農道	19	34,459
一般農道	3	6,522
ふるさと農道	3	4,500
公団農道	1	19,180
合計	28	88,202

広がる 農道網整備で 地域が 活性化

が盆地の北部地域をほぼ半周し、南部地域の半周を農用地整備公団広域農道19.2キロと結んで環状基幹農道が平成14年度に完成する。



美しいむらづくりモデル地区整備事業



豊かな農村集落 山之口町

農業集落排水事業

都市並みに生活排水を
浄化する農業集落排水施設 山之口町



ふるさと水と土ふれあい事業
農業用水路を活用した親水公園 山之口町



かかしの里 山田町

中山間地域農村 活性化総合対策事業

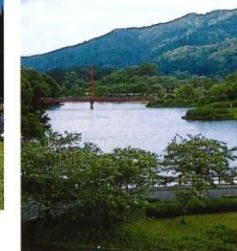
交流集会施設
山田町活性化センター
「かかし館」 山田町



三世代農業



村のまつり
ジャンカ馬踊り 三股町



石山観音池 高城町

住んでみたくなる 快適な農村生活 環境が広がる

人口が集中する都市部に比べて、整備が遅れている農村地域の生活環境を整備することで誰もが住んでみたくなる快適な農村空間が広がる。21世紀 水と緑のふるさと総合整備事業や21世紀を担うむらづくり事業、中山間地域総合整備事業などで地域にある資源を見直し、活用することで地域の特性を活かした魅力いっぱいのふるさと空間がよみがえる。都市並みに飲料水、

生活排水を処理し、農村公園が整備される。集会施設に若者や高齢者がつどって交流を促進し、威勢のいい村まつりのはやしが聞こえてくる。



国営畑地かんがい事業都城盆地地区

畑かん事業
水路マップ



関連事業で3,740haの
国営畑地帯総合整備事
業と570haの国営特殊
農地保全整備事業が並
行して実施される。



木ノ川内畑かんダム(完成予想図) 山田町

消費者の食生活が多様化し
食料供給の国際化が進む中で、
食料生産基地が変わりはじめ
ようとしている。大淀川水系
の豊富な水資源を活用し、干
ばつに悩まされて生産性が低
かった広大な畑作地帯をかん
がいですることで、農産物の消
費動向をにらんだ多様な農業
生産が可能になり、畑作農業
が活性化される。都城盆地地区
の国営畑地かんがい事業は、
貯水量601万トンの木ノ川内

畑地 かんがい事業が 盆地農業を 変える

ダムから合わせて130.9km
の導水路、用水路が4,310ha
の農地にはりめぐらされてかん
がい用水が畑地を潤す。
9,551戸の農家が受益する。
盆地の農業を変えるかんがい
事業は、昭和62年度からはじ
まり、いよいよダム本体工事
に着手する。



干ばつに苦しむ畑作



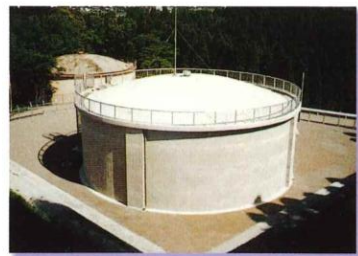
末端の畑地に排水する
幹線用水路工事



工事がすすむダムサイト付近



整備が進む畑かん施設導水路



かんがい用水を貯水、調整する
大井手ファームポンド



畑かん給水施設

畑地かんがい実証モデルほ場



かんがい用水で緑地が広がる
森田原台地 都城市



畑作農業 山田町



施設きゅうり栽培試験



スプリンクラーで
さといも栽培



ハウス花き栽培



いちご

■畑地かんがい 実証ほ場

実施地区	面積・戸数	栽培作物
森田原・都城市	106・313	トマト、ピーマン、電 照ぎく、きゅうりなど
宮之原・三股町	10.4・43	いちご、トマト、 トンネルごぼうなど
大古川・山田町	10.4・29	いちご、ピーマン、 らっきょうなど
的野・山之口町	3.3・20	さといも、ごぼう、 ハウスきんかんなど
牧原・高城町	3.0・20	にんじん、さといも、 にんにくなど
平原・高崎町	5.0・21	路地野菜、 アスパラガスなど



新設された県総合農試畑作園芸支場 都城市

大規模な畑作かんがい事
業に備えて畑作の技術拠
点になる畑作支場が平成
11年6月に新設落成。
畑作の省力機械化、作物
栽培試験など畑作かんが
い有効利用の試験研究が
進められる。

畑地かんがい事業の完成に備
えて、かんがい施設整備に並
行してすでに平成2年度からさ
まざまなかんがい栽培試験が
実施されている。都城市の森
田原地区など畑地かんがいの
対象になっているモデル地区
を選んで「実証ほ場」を設け、
1市5町の132.1haの畑地で実
証試験が進んでいる。

トマト、ピーマン、さとい
もなど栽培作物を選んで、ス
プリンクラーなどを使った栽

畑作地帯が グリーンの台地に よみがえる

培試験、土壌分析、収益性、
土地利用から経営改善まで“
いつでも、どこでも、好きなだ
け”豊富なかんがい用水を利
用できる畑作かんがいモデル
事業が実施されて、グリーン
の台地が広がり、21世紀の盆
地農業を担う水資源活用型の
畑作営農の姿が浮き彫りにな
ろうとしている。

消費者の食生活への健康・安全志向の高まりを食料生産基地がどう受け止め農業生産活動に活かしていくか環境保全型農業の推進は、21世紀に橋渡しする新しい農業の最大の課題。県内最大の畜産基地という条件を生かして、畜産資源をふんだんに生きた土づくりに活用して有機農業を推進する。また、農産物の栽培に減農薬・減化学肥料を推進するほか害虫駆除に天敵を活

地球に優しい 環境保全型 農業を展開

用するなど自然と共生する農業を展開することで、安心・安全の食料供給基地が浮上する。



畜産基地 都城



肉用牛共進会 都城市



環境保全型農業を推進する下川原地区に有機肥料を供給する堆肥センター（都城市）



都城市下川原地区では、畜産資源のたい肥を活用してバランスを失っていた土をよみがらせる土壌改良を実施し、農地から出る排水を浄化して河川に流すシステムの実験など環境保全型モデル事業が展開されている。稲作のあとにレタスを導入して、盆地に新しいレタス産地が誕生した。

県営ほ場整備事業



レタス栽培下川原団地

環境保全型 農業推進事業



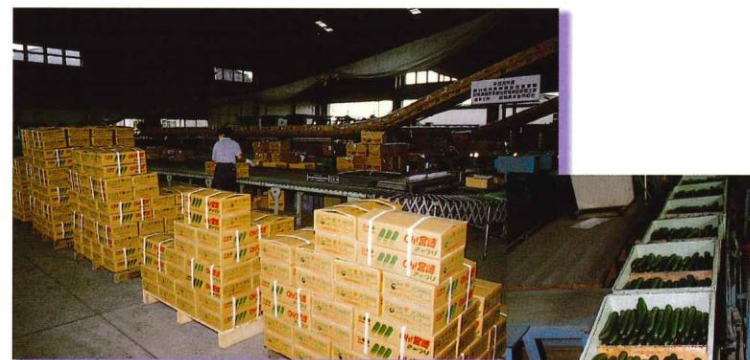
良質堆きゅう肥生産施設 都城市
北諸地区では69ヶ所に堆肥センターがあり7万7000トンの堆肥を生産農家に販売し畜産資源を活用した土づくりを推進している。

畜産の姿（平成10年宮崎県畜産統計）

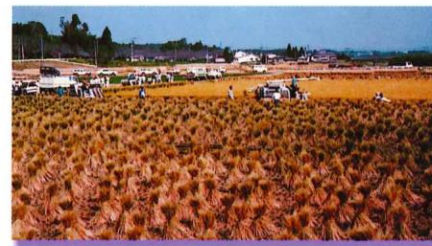
家畜名	飼養戸数	飼養頭羽数	粗生産額
乳用牛	299戸	12,400頭	6,536百万円
肉用牛	4,230	71,900	13,248
養豚	391	331,600	19,192
採卵鶏	20	575,000	1,635
ブロイラー	156	5,532,000	12,829
合計	5,096	6,522,900	53,440



JA都城会館



JA選果場



稲作



都城牛を消費者に提供するJA都城直営のステーキハウス「マック」

ひとくち
メモ

JA都城の姿

組合員数	21,103人 正組合員 13,082 准組合員 8,021
販売・取扱高	299億3,000万円
和牛	88億1,900万円 29.5%
肥育肉	62億3,700万円 0.8%
野菜	31億9,400万円 10.7%
米	19億3,000万円 6.4%
貯金	1,045億円

（平成10年度）

正組合員、准組合員合わせて2万1000人を超す全国でも有数の大規模農協、JA都城が、1市5町の盆地農業をリードする。“ひとはみんなのためにみんなはひとりのために”という協同組合のスローガンに向かって、売れる農産物を生産する産地づくりを進めるとともにお互いが助け合う集落営農を基本に“安心・安全”の消費者志向に対応できる環境保全型農業を展開する。地域

地域農業を 活性化する JA都城

金融機関として利用者の信頼回復をはかるとともに組合員の福祉サービスを充実させるなど農業者の生活を守り、地域と農業の活性化に助け合いの輪が広がる。

都城地域農業振興センター

農業の高齢化、後継者不足に対応して、集落単位で農業集団を組織化して農地の有効な活用をはかる新しい試みが平成10年度からスタートした。

宮崎県の南西部に位置する都城盆地は、年間平均気温15.8℃、年間平均降水量2,395.8mmという温暖多雨な内陸性気候に恵まれて森林資源の宝庫。周囲の山々は鉄肥杉の美林に囲まれて昔から林業、製材業がさかんで地域経済を支えている。また、宮崎自動車道や国道など南九州の交通網の要衝に位置することから、交易がさかんで家具など木工産地を形成し、九州で



盆地を鉄肥杉の美林が囲む 山之口町



杉の素材が集積する
県森連の林産物流通センター 都城市



高性能機械化で木材生産

豊かな盆地の 森林資源が 林業王国を築く

も有数の木の温もりが伝わる
木工製品が生産されている。



しいたけ生産



プレカット加工施設 都城市



木工団地



小学生の林業体験教室



高級家具の加工産地

国土保全山村集落整備事業



過疎・高齢化が進む山村



過疎化、高齢化が進むことで維持が困難になっている中山間地域を、川下、川上が一体となって守ろうという国土保全奨励制度を宮崎県が全国に提唱し、ふるさとを守る運動が全国に広がろうとしている。



国土保全シンポ

北諸地域でも国土保全山村集落整備事業や森林整備担い手育成確保総合対策事業などでふるさとを保全する施策が重点的に展開されている。みどり、森林空間やふるさとの景観を活用するグリーン・ツーリズムのうねりが広がり、都市と山村が交流し、理解しあうことでかけがえないふるさとが再生する。

国土保全奨励制度で ふるさとが再生する

大淀川の上流に広がる中山間地域には豊かな森林空間と山村が点在し、かけがえのないふるさとがある。森は水源をかん養し、洪水を防ぐとともにみどりの森林はいこい、保健休養の場としてさまざまな公益的な機能を果たしている。

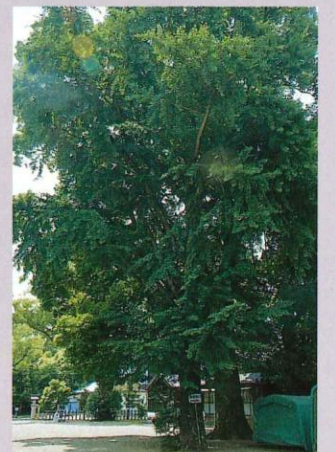
森林づくりボランティア支援事業



植林するボランティア団体



温泉のある風景
山田町温泉交流センター



樹齢200年のくすの木 都城市

ふるさと林道緊急整備事業



ふるさと林道 石風呂・官行線 山田町



災害復旧治山事業 高崎町



木炭生産 三股町

都城盆地では過疎化と高齢化が急速に進んでいる。特に基幹産業の農業では就農者のうち60歳以上が半数以上を占めるなど元気の出る農業産地づくりが求められている。宮崎県は農業の中核になる認定農業者制度を設け認定農業者が自立できる農業を実践し、高齢農家ができなくなった農作業を受委託するなどして、地域農業の活性化をはかっている。

盆地農業を支える担い手群像

また、家族経営協定を結ぶことで賃金体系を整え、労働時間を短縮するなど都市生活者並みの農業経営を実現し親と子が学び合うアグリファミリー制度で農の知恵を若者に引き継いでいく



高齢化が目立つ農業従事者

認定農業者制度促進事業



新しい家族経営推進運動事業

家族経営協定の締結

担い手育成支援事業

養豚の担い手 高城町



農業人材確保育成総合対策事業

飼料栽培の機械化を研修する畜産担い手

酪農ヘルパー組織運営強化事業

搾乳作業を支援する酪農ヘルパー



飼料栽培の大型農機具を共同利用 都城市



認定農業者研修 三股町

認定農業者(人)

区分	平成11年 4月現在	育成目標 (平成14年)
都城市	365	850
三股町	92	128
山之口町	49	71
高城町	119	233
山田町	42	159
高崎町	187	428
合計	854	1,869

新規就農者経営基盤強化事業



大型稲作経営に挑む若者

SAP集団が21世紀農業を担う



新しい施設園芸に取り組む若者



アグリファミリー制度で農業を継承
馬場 通さん(44歳)と石坂 信康さん(23歳)



花き栽培実習の農業高校生

農村女性グループ起業支援事業



農産加工開発研究グループ 高崎町

元気の出る農林業は元気な若者を育成することからはじまる。SAP集団、作物別の若者研究グループ、農村婦人の農産物加工グループなどいきいき、若者たちの活動の輪が広がっている。



そばクッキー、ゆずみえなど農産物を手づくり加工、販売している。

ふれあい大牟田農産加工センター

農産漁村女性グループ支援事業

あくまき、ゆべすなど手づくり加工、販売。

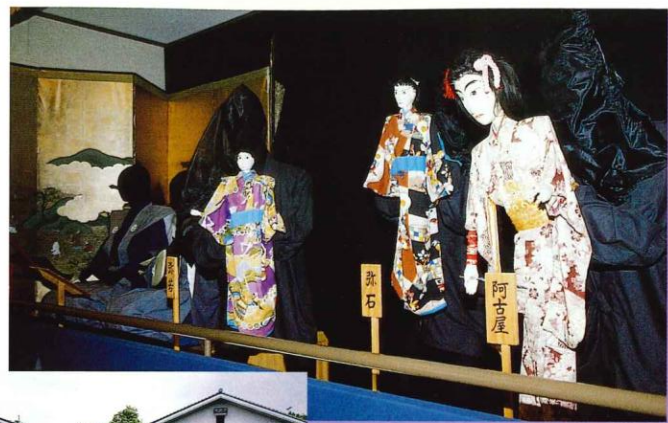
轟木農産加工グループ 三股町



いきいきと盆地に若者・女性がつどう

少子化時代を迎えて若者は地域のかげがえのない宝。宮崎県の出生率(平成9年)は20年前のほぼ半分近い9.8、都城市9.7まで減少してますます逆ピラミッドの人口構成が進む。若者に魅力のある農業や林業を推進することで、地域が輝き活性化する。

“ものの豊かさ”から“こころの豊かさ”に時代が動く。人々が榮々としてくらししてきた都城盆地には、長い盆地の歴史と風土をまぶした伝統芸能や農の文化が息づいて生活に潤いが広がる。霧島おろしの寒風やみどりの草原にかけろうが舞う四季の季節が、めくるめき積み重なって盆地の風土や精神を育んできた。地域の香りが伝わる食の文化やふるさとのまつりが豊かな地



人形浄瑠璃は300年もつづいている全国でもめずらしい貴重な文化遺産で27体の人形が麓文弥節などを演じる農の継承文化。

人形浄瑠璃の里 山之口町



盆地の夏を演出する六月灯 都城市

21世紀を担うむらづくり事業



ふるさとのまつり 熊襲おどり 山田町



人間早馬競争 三股町

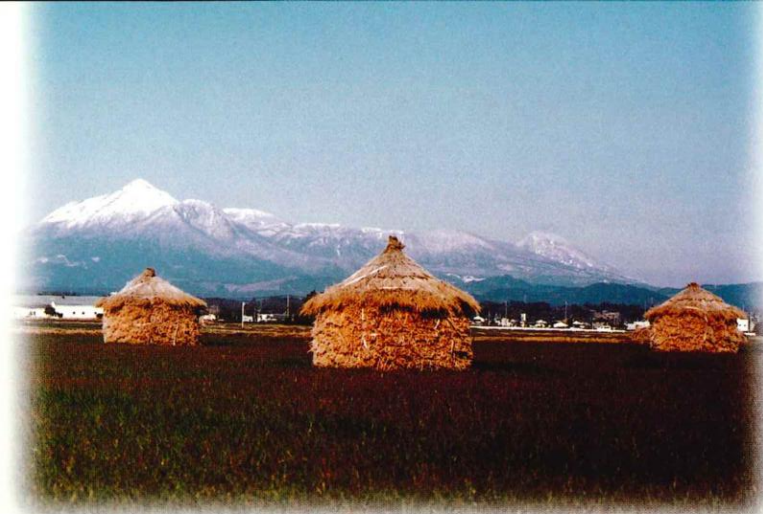
食の文化



ふるさとの旬の味



樹齢300年のかやの木 都城市
ふるさとの銘木



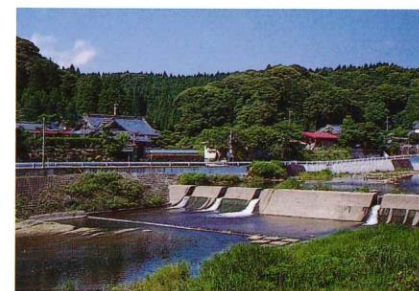
ふるさとの山 霧島連山



年間85万人が訪れる
高千穂牧場 都城市



新鮮な農産物がいっぱい
都市・農村交流拠点
山之口「道の駅」



小川のある風景
山之口町



消費者交流



農業とふるさとに
誇りを持つ若者が育つ



21世紀の農業を受け継ぐ盆地のこどもたち 都城市

21世紀は北諸の時代

新しい時代に向けていま、北諸の新しい風が動き、始動する。

カラフルな気球が浮遊する地上には、豊かな盆地農業が展開されて若者が居着く活力に満ちた農のくにが広がる。

生産基盤が整備されたシマ模様の水田と農道が従横に走って、自立できる農業が展開される。みどりの空間がいっぱいの農山村にやすらぎといこいを求めてグリーン・ツーリズムの輪が広がり、都市・山村の交流が深まる。

21世紀は農の時代。

